

2) 稚魚ネット採集標本から推定される湖産アユの時期別「岸—沖」分布

田中秀具・片岡佳孝・澤田宣雄・孝橋賢一・酒井明久

【目的】河川から流下したアユ仔魚が湖中のどこに分布し、また、どこで発育・成長するのかを明らかにし、アユ資源の質的狀態を把握するための基礎資料を得る。

【方法】1999年9月30日～2000年1月26日の間に7回のヒウオ曳網調査を安曇川～犬上川を結ぶ北湖横断コースで4水域で実施した(図1)。曳網水深は水域2と水域5の2カ所は7mのみ、水域3と水域4の2カ所は7mと18mの2層である。採集した仔稚アユについて、各時期、各水域50尾(それに満たない場合は全個体)の標準体長を測定し、発育段階を東(1964)に準じて検定した。

【結果】

- ① 9月30日では、どの水域もB1が分布し、やや沖(水域3)に先に生まれたB2が多くみられるが、それより沖にはそれほど拡がっていない(図2、左)。
- ② 10月19日～11月18日には沖ほど(図2、右)、また、同一水域では深い層に発育の進んだ大型個体が多くなる傾向がみられた(図4)。岸寄りでは後から生まれた小さな個体が多く分布し、従って、今年実施された、エリ漁業の時期を11月16日まで早めた特別採捕(通常は11月21日解禁)は、時期尚早に過ぎたものと思われる。
- ③ 11月29日には、分布する仔稚アユの大きさや発育段階に岸寄りと沖合の差がなくなり、岸寄りにも発育段階の進んだ大型個体が分布するようになった(図3、左)。
- ④ 12月15日～翌1月26日では、岸よりの方に大型個体が増加し、沖合にはアユは少なくなるとともに、小型個体のみが分布した(図3、右)。
- ⑤ 以上のことから、岸から沖合に向けて定点を設け、稚魚ネットを曳くことにより、1999年については、9月から11月中旬までの拡散と発育、11月下旬以降の大型に発育した稚アユの接岸の傾向が明らかになった。拡散や接岸の時期やその体型等については、年変動があるのか、また、どの程度変動するのかについては、不明であるが、今年の状態から判断するなら、早期漁獲のエリは、1月開始、早くとも12月開始が適当であったろうと思われる。

【文献】

東幹夫, 1964: びわ湖におけるアユの生活史. 生理生態, 12, 55-71

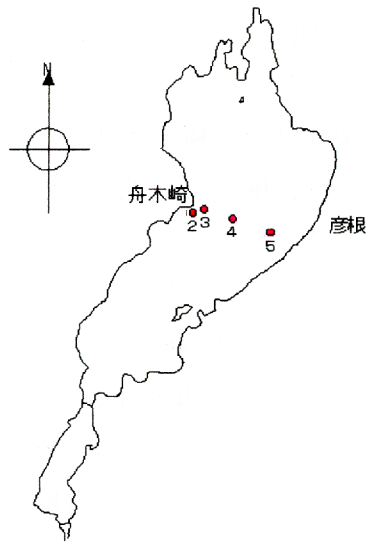


図 1. 調査水域

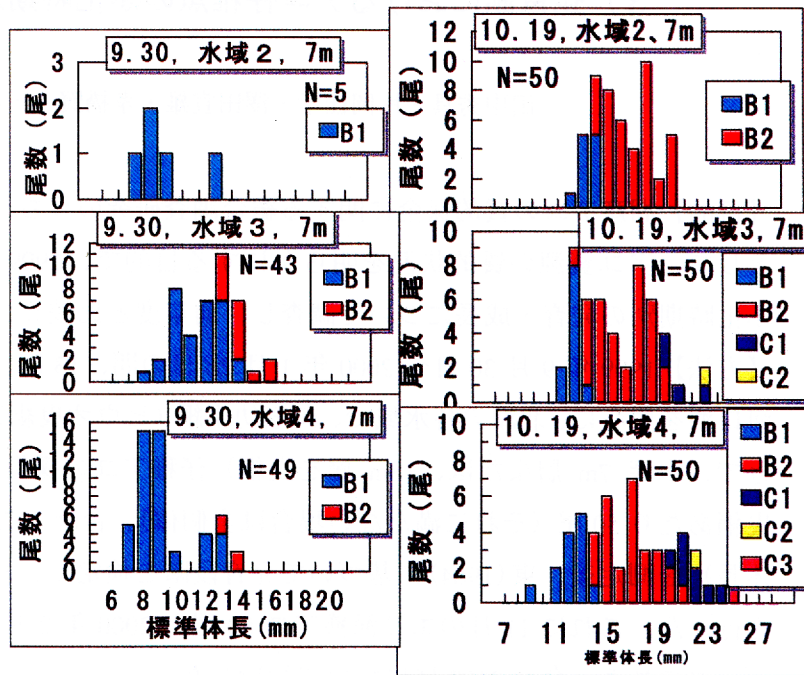


図 2. 水域別、時期別分布状況 (1)

(上から水域 2, 3, 4)

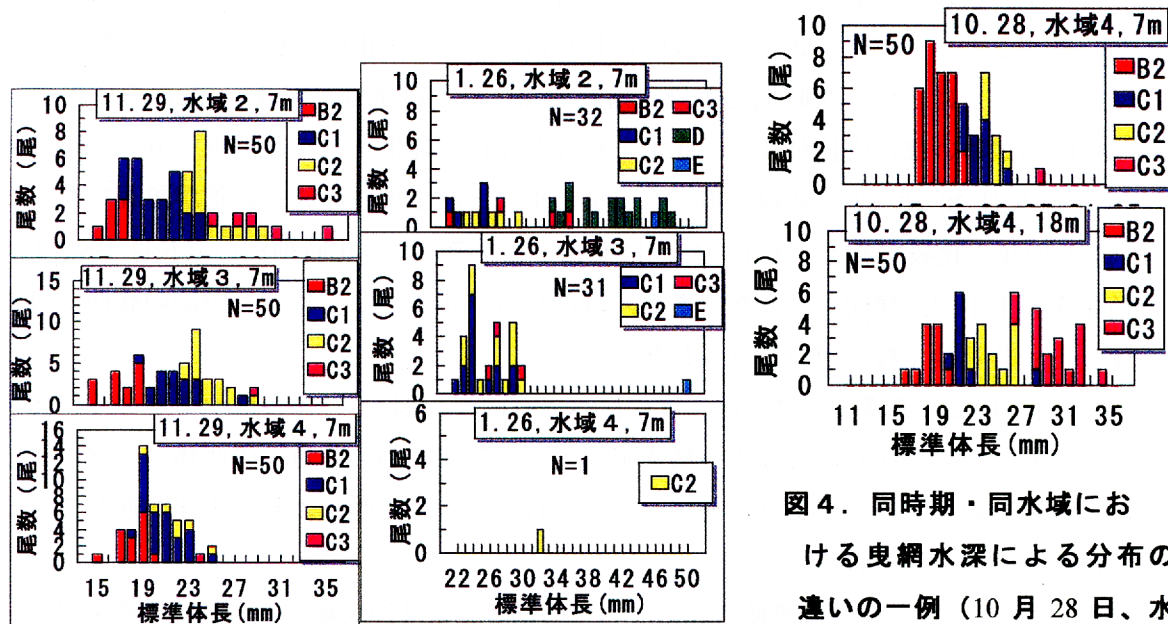


図 3. 水域別・時期別分布状況 (2)

(上から水域 2, 3, 4)

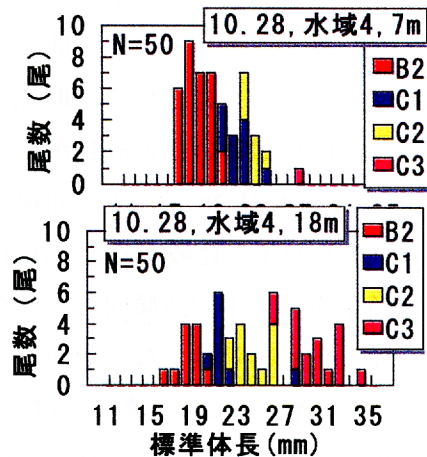


図 4. 同時期・同水域における曳網水深による分布の違いの一例 (10月28日、水域4)